

[メニューへ戻る](#)

R1 SG 台湾 FW

11/12（火）

本日は花蓮にある慈済大学附属高級中学（日本でいうところの高校）で、現地の高校生と交流を持ちました。この学校は、村尾さんプログラム初日に訪問したリサイクルセンターと同じ、仏教を基盤にした台湾の重要な NGO 慈善事業団体の一つ、慈済が経営する私立学校です。

慈済高級中学では、自ら手を挙げてくれたバディが本校生徒一人ひとりについてくれ、一日を共にしました。

午前中はバディと共に 3 つの授業に参加。現代社会や数学の授業は中国語で行われたので、なかなか理解するのに苦労したようです。けれども英語は万国共通、英語の授業ではバディやクラスの生徒達とコミュニケーションをとりながら単語ゲームを積極的に楽しむことができました。

昼休みは特別室でバディと共に精進料理をいただきました。慈済では殺生が禁じられており、給食も精進料理です。野菜がたっぷりなのはもちろん、大豆を加工して様々な肉魚もどきを楽しみました。噛みごたえのある肉もどきは味付けも美味しく、育ち盛りの高校生も満足する美味しさです。

午後は図書室の 2 階にあるおしゃれなホールで交流会を行いました。まずは慈済高級中学の生徒が学校紹介。卒業生が在学時に作製したプロモーション・ビデオの完成度は高く、思わず入学したい気持ちにさせられます。次に本校生徒が学校と岩手を紹介。ここでは第十応援歌とさんさ、そして「上を向いて歩こう」の合唱を披露しました。楽しんでいただけたようで、練習してきた甲斐がありました。その後、国際ボランティアでフィリピンを訪問した慈済高級中学の女の子の発表を聴きました。

そしていよいよ、生徒達にとって初めての SG 課題研究のプレゼンテーション。慈済のバディを含めて 8 人の 3 つのグループに分かれて、3 つの班がプレゼンテーションを行いました。岩脇・佐々木組はお菓子を活用して岩手の魅力をどのように発信するかについて発表しました。馬場・原科組は学生がよりよく学べる社会について。岡崎・三ヶ森組は視覚障がい者にとって住みやすい社会とグリーン・ビルディングについてを発表。

パソコンの小さな画面を用いて自分達が考えた仮説を発表し、慈済高級中学のバディ達に意見を求めるという形で、英語でディスカッションを行いました。初の機会なので、生徒達も四苦八苦しながら進めていました。自分達の探

究に興味を持ってもらうために、注意をひくプレゼンテーションを行うにはどうしたらいいのか。どう質問したらディスカッションで相手に応えてもらいやすくなるか。改善の余地がたくさん残されていることを実感しながらも、バディ達が懸命に応えようとしてくれたことで、なんとかやりきることができました。とても良い学びができたと思います。

最後は慈済の校長先生と佐藤が挨拶を交わしました。11月23日、花蓮市と盛岡市が友好都市協定を結びます。慈済高級中学と本校の相互交流が、両市の密な関係を後押しできたら素敵です。

台湾恒例のお土産交換をした後、全員で記念撮影を行いました。お別れが近づくと、本校生徒もバディも、別れを惜しみます。

同世代の交流は本プログラムで初めてでしたが、お互いに大いに刺激し合えた、良き日になりました。

夕飯は花蓮一の夜市でそれぞれ摂りました。台北や台中の、たくさんの人で混み合う夜市とは違い、広々とした空間でゆったりと楽しむことができました。さすが観光立県、随所にインスタ映えスポットが用意され、デートにも最適です。台湾西部の大都市に暮らす人々が、「花蓮は良いところ、一年に一度は行きたい！」と言っていた意味がわかる気がします。ちなみに、花蓮県の醸し出している空気は、岩手と似ています。初めてだけど懐かしい。皆さんも訪れたら、そんな風に感じるんじゃないかな。













